

公表

## 児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	運動療育特化型児童デイサービス ぼぶらの樹 平野		
○保護者評価実施期間	R8年 2月 2日		～ R8年 2月 18日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 3
○従業者評価実施期間	R8年 2月 2日		～ R8年 2月 18日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 2月 19日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日常生活スキルの実践的な強化	朝の会、活動、終わりの会までの一定したルーティンより身支度・片付け・時間管理など、生活に直結するスキルを日々過ごす中で繰り返し練習し、「自分で出来る力」を育てています。	1つ何かが出来たら褒める等成功体験を積んでいき、次に繋がる取り組みを行っていきます。また、伝える際は何が出来ていたらOKなのか具体的に端的に伝える内容で伝えていきます。
2	協調性を育む集団活動の豊富さ	運動・SST・グループ活動等を通して、順番を待つ、役割を担う、友達と協力する力を段階的に身につけられる環境を作っています。	個別から小集団、全体活動など人数差を設けスモールステップで集団活動に慣れ、無理なく協力的行動や集団適応力を育てます。
3	多年齢交流による成長機会の多さ	未就学児から就学児までの関りを大切にし、年上から学び、年下を思いやる経験を通して、自然な社会性の発達を促しています。	活動の中に「先生役」「サポート役」を意図的に設定し、異年齢で学び合える関わりを日常的に創出できる取り組みを進めています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	年齢層の幅広さに伴う活動調整	多年齢の受け入れ体制をとっていることから活動内容によっては発達段階に応じた参加調整が必要となる場面があります。	活動の段階設定、グルーピングの工夫を通して全児童が参加しやすい環境づくりを強化していく。
2	支援プログラムの充実	就学児の割合が高いことから未就学児の発達段階に沿ったプログラムの体系化の充実が必要になります。	遊びを通じた基礎的発達支援や個別課題の整理を進め、早期支援の質の向上を目指していきます。
3	環境整備の改善	肢体不自由児、重症心身障害児への配慮、学習に集中できるスペースの確保が必要になります。	パーティション等を用いた学習スペースの確保、動線を設け安全性と活動の幅を狭めない環境配置を形成していきます。